

今年も 最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作1点と本校が上位に複数入選

★受賞一覧

【地域文化研究 個人部門】 最優秀賞（部門1位）

飯田 真世 （3年生）

「漬物で語る～『知らない』と『忘れる』に立ち向かう人々」

【地域民話研究 個人部門】 優秀賞（部門2位）

木村 心優 （2年生） 「澤様と人々の思い」

【地域文化研究 団体部門】 優秀賞（部門2位）

地域研究グループ : 代表 伊藤 響（3年生） はじめ15名

「平成最後の“祖父江の虫送り”～杏和高校 繋がりを求めて～」

【地域文化研究 団体部門】 佳作（部門4位）

旧2年3組お雑煮調べ隊 代表 澤井 翔太（3年生） はじめ昨年度2年3組のメンバー

「自分たちの足元をみつめる～我が家のお雑煮から“今”を考える」



★表彰式当日の様子 12月2日 國學院大学にて



プレゼンをする飯田さん



表彰される木村さん



出席者全員で記念撮影

國學院大学は柳田国男・折口信夫らが教鞭をとった民俗学研究的な中心的な大学である。高校生に民俗学、伝承文化を学ぶきっかけ作りとして國學院大学が毎年行っているこのコンテスト。今年も全国から700を超える論文が集まっている。本校は4年連続で入賞を果たし、上位多数入賞することができた。

12月2日（日）國學院大学キャンパスで行われる表彰式に6名が参加した。また、地域文化研究個人部門で最優秀賞を受賞した飯田真世さん（3年生）は10分間のプレゼンテーションを行う機会を得た。圧倒的なプレゼンテーション能力を発揮し、聴衆を魅了し喝采をあげた。

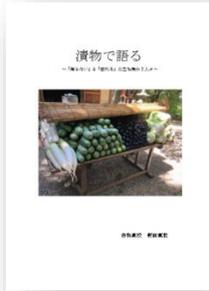
飯田さんの作品は昨年優秀賞に入賞したものの続編で2年間調査を継続し、念願の最優秀に輝いた。木村さんは小学校時代から調査を続けている地元の澤代官にまつわる話を調査したものである。

団体部門では、本校が5年連続で取り組んでいる「祖父江の虫送り」の調査を継続したものとクラスで取り組んだ「お雑煮」研究が入賞を果たした。

表彰式の後の懇談会では同じ志もつ、全国の高校生と交流し楽しいひと時を過ごした。

★研究内容

飯田真世「漬物で語る～『知らない』と『忘れる』に立ち向かう人々」



日本で唯一漬物の神様を祀るあま市の萱津神社の「香の物祭」に関する研究である。昨年から引き続き調査を行ったもの。今年は「香の物祭」の中でも敬神婦人結の会の行う漬物のつけなおしに焦点を当て聞き取りを行った。香の物の歴史を繋ぎ伝えるため努力を惜しまない地域の人々様子を考察し、祭りの持つ現代的意味を明らかにした。

木村 心優 「澤様と人々の思い」



稲沢市の須賀谷に地区に伝わる澤代官の話を調査したものである。江戸時代、市内の十七ヶ村は、雨が降るたびに河川の氾濫に悩まされていた。代官の澤園兵衛は私財をなげうち須賀谷川を改修し人々に恵みを与えた。その功績をたたえ、現在でもその子孫を招き行っている澤まつりや地域に住む人々の思いを考察したものである。

地域研究グループ：伊藤響はじめ15名「平成最後の“祖父江の虫送り”～杏和高校 繋がりを求めて～」



県指定無形民俗文化財である「祖父江の虫送り」に関する調査研究である。虫送り当日の詳細な様子をレポートするとともに、もう一つの尾張の虫送りである常滑市矢田地区の虫送りや稲沢市矢合新田地区の虫祭りとも比較を行った。また、SNSを利用した情報発信による地域活性化の活動や小冊子「虫送り AtoZ」の作成など今年度の一年にわたる活動をまとめたものである。

旧2年3組お雑煮調べ隊：澤井 翔太はじめ旧2-3 「自分たちの足元をみつめる～我が家のお雑煮から“今”を考える」



昨年の冬休みにクラス独自で取り組んだものである。各自の家のお雑煮の作り方を調べ比較したもの。親の出身地によって雑煮は大きく変わり、また、同じ尾張地区であっても各家庭に微妙に違うことがわかり興味深かった。お雑煮の民俗学的な意味も明らかにした。たかがお雑煮されどお雑煮である。